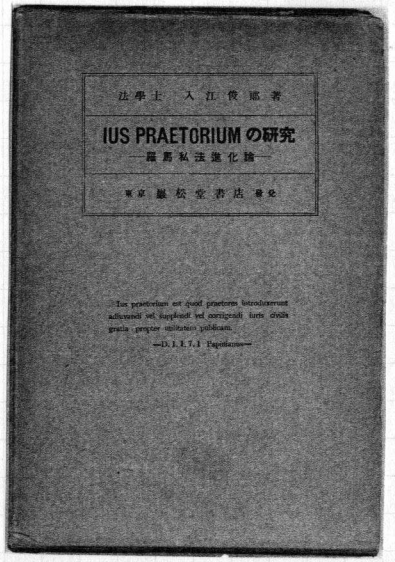
入江俊郎（いりえとしろう）司法官、歌人。明治三十四年一月十日東京生れ、昭和四十七年七月十八日歿（一九〇一―七二）。東京帝國大學法學部卒。戦後法制局長官として新憲法草案に關與。のち衆議院法制局長、最高裁判所判事を歴任。八法學會理事も務めた。

処女作『ユース・プレートリウムの研究―ローマ私法進化論』（大正十五年二月五日巌松堂書店）の著書を有する他、憲法、地方自治關係書を著はしてゐる。また山下陸與に師事して短歌を能くし、陸與歿後は山下喜美子の指導を受けた。その作品は、回想「新憲法草案起草の思い出」、「憲法草案余録」などと共に遺稿集『天と地との間』（昭和四十九年十一月入江静刊）に收められた。